

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

9月4日～9月11日までオランダ/フランス球根圃場確認調査に行っていました。
直近の球根流通状況を含めて報告いたします。

今回は、3年ぶりのフランス訪問です。3年前も時期は一緒で、9月第1～2週にかけての訪問でした。
前回同様、フランス産百合球根隔離免除に向けての準備・確認・打ち合わせも兼ねた訪問です。

今回は計画通り、JFTA理事会社3軒、オランダ輸出業社2軒での訪問でした。

大勢での訪問でしたが、初めて9月のオランダ/フランス圃場確認に参加する方もおられ、忙しい日程ではありましたが、面白かったです。

オランダ 圃場確認

2002年から毎年9月第1～2週にかけて行っております。

これも温暖化の影響なのか？はたまた、品種構成が変わってきた為なのか、行き始めた当時は、このスケジュールが作況を予測するには最も適した時期だったのですが(当時は8月後半から確認作業を行っていた輸出業社も多かった。)、最近では、私の圃場確認(他2輸出業社)の作業は相当早い方らしく、「日本人が来た！そろそろ時期だなあ。」という感じの様です。

最近では、9月第3～4週くらいにするのが確認適期となってきている様です。(但し、そこまで遅らせると球根相場に乗り遅れる場合がありますけどね…。)

今回は初めて参加してくれた方がおられましたので、例年のまわり方とは少し違っていましたし、初めて訪問した農場も複数軒ありました。

今までは当社が仕入ている球根の約6～7割分に相当する圃場を確認していましたが、今回は他2輸入業社様との兼ね合いで少し変更してくれた様です。

今回の印象は単純に昨年比較(13年産、現在皆様が使用している球根/14年産、本年12月以降来年納品させていただく球根)で言えば、「作は良い」と言えそうです。

昨年とは全く違って、定植後3～6月まで暖かく、日照時間も長かった様です。
初期生育が良かった年で、作が悪くなる年はあまり経験がありません。

各々の球根生産をしている地域ごとに大きく差がある様ですが、雨が多かった様です。(局地的に滝の様な豪雨があった！)

今年の新潟/北海道(日本中が…?)の球根生産地帯も同じ様な天気具合で、既に早掘り作型の結果は、「太りすぎ…。」「小さい球根が足りない…。」という状態です。(遅掘りはもっと太る…。)

尻腐れが新潟産/北海道産ともO.T系を中心に多発しています。オランダ産も…。

13年産オランダ産は、私自身、25年近くオランダ産を取り扱っていた中では数回しか経験のない「球根が太りきらなかったから、逆に輪付きが良い年」となっていますが、14年産は「十分に太っているので、輪付きは丁度良い～やや少なめ」というイメージをしなければ…と感じました。(コメントするにはまだちょっと早いんですけど…。)

秋の訪れが早い様です。

スタートから順調に推移していますが(暖かめ…)、8月のちょっとした温度変化で(低温!)、過去に数回しか経験がありませんが、本来「どんぐり」や「くり」が充実して落果する時期ではないのが、7～8月に雨の多かった南部オランダの圃場付近で、大量に「落果している木の实」を確認しました。

(普段は東部の方が早い…?)

輸出業社の仕入担当との意見交換では、「通常、今頃の圃場風景は、まだ夏の葉色・草勢から秋の色合いに変わる時期」、それに対して私も同感でしたが、今年は既に「秋の葉色・草勢に変わっている」様です。

いつも通りに畦の端と真ん中あたりの球根を試験掘りしましたが、昨年から見れば、極端なことを言えば2.5～3.0サイズ分大きく見えました。(昨年は、平年より1.5～2サイズ分小さく見えていました。)

もしかしたら、「今年は2週間分くらい季節が進んでいるのだとしたら当然大きく見えるよなあ」という事だと思います。

今回見た畑は、「通常の年なら9月20～25日くらいの肥大ステージ」というイメージだったのでしょうか？

にもかかわらず…

肥大が始まった畑は、通常畦面が割れてきます(球根が太ってきて土を持ち上げるから!)

今年はまだ割れていません。雨が多いから土にひび割れが入ってないだけなのか…それとも…。

定植間隔を広げているのでしょうか？それなら大歓迎です。広く定植間隔を取った畑の球根の方が、圧倒的に球根品質・輪付きが良くなりますからね～。

13年産の場合…

9～11月にかけて比較的暖かく、降雨量も普通くらいでした。7～8月は日照時間が長く暖かかった。要するに13年産では、3～6月のみが酷かったのです。

私が見た事も無いくらいの最悪のスタートを切った年だったのが、天候が「肥大は悪かったが(後半回復したけど…)品質は良かった。」という結果になった要因だとするならば…、

14年産の場合…

『9月25～30日まで、夜温が10℃以下にならないで、昼間の気温が20℃以上を維持し続けて、さらに灌水をしなければならぬくらい雨が平年並みにしか降らなければ、**球根は太らない訳がない…。**』

という事になりそうです。(今後、嵐が来なければ…。)

球根品質、球根の力については…まだ時期早々…。

ありがたい事に、9月11日から、9月20日までは、上記した様な天候よりさらに2～3℃高く推移している様です。9月いっぱいこの天気が続けば感覚的には10月10～15日まで『秋陽気が良かった』という事になります。

肥大にとっては、良い年になりそうです。

(おかげでポトリスの進みも遅い…。充実の為にはちょっと気になる…。)

前記した様に、今回は他2輸入業社様が参加しておりましたので、今までと違う農場を訪問しました。

訪問した地域は、

南部オランダ

・ブラボント

・ブラボントとリンブルグの中間地帯(地名聞き忘れた…。)

・リンブルグ

東部オランダ

・テレンテ

・オーバーハイセル

・ウェストフリーズラント（グロニンゲンの西南。地名は聞き忘れた…。）

・ノースストポルター

北部オランダ

・ブリーザント

ホー農家と栽培農家（コントラクトローラー）毎にしっかり説明してくれていた様です。（将来の流通を意識しての事でしょう。）

*5月/6月に雨が多かった東部オランダにおける圃場水没事故の影響は、既におこまれ、ここまでに発注してある取引に対しての影響は、最小限となる様子（一部品種に影響は出る）。

*7月/8月に雨がかった南部オランダにおける圃場水没事故の影響は一部の品種・一部の輸出業者が関わる農家に大きな被害が出ている様なので、かなりの高い割合の欠品が見込まれる（ここまで発注確保した分に対して）。

水没事故の影響は限定的だと思います。

ひどい所はひどかったんですけどね…。

球根流通状況

世界の主要球根消費国：オランダ・イタリア・メキシコ・北アメリカ・ベトナム・中国・台湾

百合切花相場が良いとの事。

作が良いので、球根は余るのでは…そういう雰囲気は今の所は無いです。

O.H/O.T及びA.H/L.A、さらに鉄砲百合ですら販売好調…12年産/13年産の不作が影響しているのでしょうか？

日本だけ乗り遅れていませんか？

特に、A.H/L.Aは、年間消費6億5千万球～7億球に対して、約1億球足りないという雰囲気なのだそうです。

どんなに作が良くとも1億球不足では…無理ですよ～。

O.H/O.Tについては、中国が現状の球根市場相場価格を認めれば、このままの価格で動くのでしょうか～。

価格動向については今月末くらいから来月の初めに発行する在庫表確認してください。

今が底値なのかもしれません。消費状況が読みづらい年となっています。

「売り切れ」だったはずの球根が、「オイオイ…、やっぱり出てきたぞ。」という連絡はちょっとづつ出てきました！（出てきますが…残念ながらL.Aは、価格下がってない…。）

結果、球根価格が高値めに推移して、日本への入荷量は減少する？これ以上減る？

ちょっとドキドキする減少水準に入りつつあるような気がします。（南が減ってないから良いの…？）

フランス圃場確認及び打ち合わせ

オランダの圃場確認と違い、フランスの圃場確認の経験は、バブルの景気の良かった十数年前の11月に一回、三年前の9月、そして今回、の計三回となります。（ほとんど経験が無いと考えて下さい。分かった様な事は言えません…。）

初日の昼食の際、隔離免除に向けて作業を実施してくれている植物防疫担当の方とお会いできました。準備は「順調に進んでいる」「どのように輸出するのか」等、フランス球根農家/オランダ輸出業社、皆で検討していたようです。

私達も宿題を預かってきました。

夕食では、球根農家・団体の事務局を担当している女性と会食をしました。

「泣き言は一切なし」前向きの方で心強かったです。三年前よりさらにたくましく見えました。

本題の圃場確認ですが、三年前との比較、そしてオランダ産との比較でしか判断できませんが、

「球根は異常に太っている！」ように見えました。

圃場の風景は…

オランダより過酷な気象条件で栽培されていますので、見てくれは比較論キレイではありませんが、三年前に比べれば「ものすごく良くなっている」ように見えました。(初期のN.Z/C.Hに比べても…)

ほとんどの人が「太りすぎだ…やばい…」と感じていた様です。(オランダ人/フランス人)

フランスの球根は、その生産の大半がオランダのオーナー農家の「委託栽培」です。

オランダから持ち込まれる種球品質も良くなっているのでしょう。

そして、委託農家の栽培技術も三年前に比べれば、「本当に同じ人？」と思うくらい良くなっている様です。

一番感激した事は、植付けられている種球の品質もさることながら、植付けられている種球サイズについてです。

明らかに「品種ごとに仕上りサイズを意識して、種球導入をしている」様に見えました。

まるで、新潟や北海道が仕上げ目標サイズ毎に養成球/種球を導入しているのと同じやり方に見えました。

これは三年前には確認できなかった事です。

隔離検疫免除に向けて、様々な意味で準備をしてくれていたのだなあと思いました。

*この事は、将来日本がフランスで球根を作ってもらおうと考えた時、ものすごく重要なポイントになってくるなあとも感じました。(球根の計画生産・計画販売。そうしなければ他国の需用用の品種に…)

1997～99年のN.Z産、1998～2002年のC.H産、オランダ産以外の球根が隔離免除になるプロセスを見てきた中では、「フランスという大国の農業(オランダよりはるかに大きい)、その中の球根生産」ですから、小さい国の対応とはやはり違ったものとなっているように見えます。

預かった宿題もありますので、最後まで注意深くフォローしていきたいです。

以上
森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>

私共はLPIの趣旨に賛同し
協力・応援しています